

『新しい単元や題材と出会う1時間目を大切に！』

ある日本校の職員室で、中学部の先生と教務主任が数学の指導計画について熱心に意見交換をされていました。内容は、単元「表とグラフ」の授業の進め方です。

著作教科書には、例えば、天気調べの記録表と天気の絵カードを用いて、天候別に○印などを用いて表に整理したり、整理されたものを「長さ」あるいは「高さ」で比べさせたりする題材があります。このような題材を通して、表や棒グラフにすることで、比較の結果が一目で分かることに気づき、表や棒グラフを用いる便利さを実感できるようにしていきます。

やりとりを聞いて大事なポイント！と感じたことは、生徒が、新しい単元や題材と出会う1時間目を大切にしたい、そこを「主体的な学び」の視点で授業改善したい、という部分です。

生徒の実態を踏まえ、単元の指導計画の1時間目から著作教科書の題材「天気調べ」を用いて、その事実や問いとの出会いを教師が設定し、生徒の主体的な気づきを生み出していきやすいのか。

それとも、学級を構成する生徒が、表で表したり、数量で比べたりすることについて、どのような経験や知識を持ち合わせているかを把握し、例えば「給食の好きなデザート」などと、まずは既知っている事実から、好きかどうか、という単純な問いとの出会いにおいて、生徒が課題に緊張や不安を抱くことなくリラックスして、だからこそ「何とかはっきりさせたい」という意欲をもって、各自のエピソードや考え、疑問や予想を出し合い、表したり、結果を導いたりする経験をさせる。そうしてから、著作教科書の題材（例「天気調べ」）を用いた新しい事実や問いとの出会いを設定していけば、生徒の主体的な学びを生み出していきやすいのか。

知的障害教育における教科指導では、「主体的な学び」の視点で、特に新しい単元や題材との出会いとなる1時間目を授業改善することは、児童生徒が、その後の問題を見出し、問題を自立的に解決し、新しい概念の形成を進めていく認知のプロセスにおいてはとても重要な考え方ではないでしょうか。

丁寧かつ多角的に、単元の指導計画（学習の過程）に関するシュミレーションや、生徒がワクワクし、やってみたいと思える数学的活動など、生徒主体の学びの創造が、このような先生方の周到な準備の下で、成り立っているのだと、改めて感心させられた瞬間でした。

本年度の努力目標の一つ	教育活動の行動計画の一つ
○学習指導要領を意識した教育課程編成や指導内容・方法の改善及び充実	・全校で、令和5年度に各学部・学年で実施する教育課程の年間指導計画（単元計画）に基づいた計画的な指導と学習評価はできているか。 ・全校で、児童生徒一人一人の知的障害や、自閉症等の重複した障害の特性を十分把握し、認知の特性を踏まえた指導の手立てが講じられているか。

がんばる子供たちに、豊富な手立て、指導方法の工夫で応えたい！